

令和 4 年ホヤ類調査結果速報 No. 3

令和 4 年 9 月 27 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

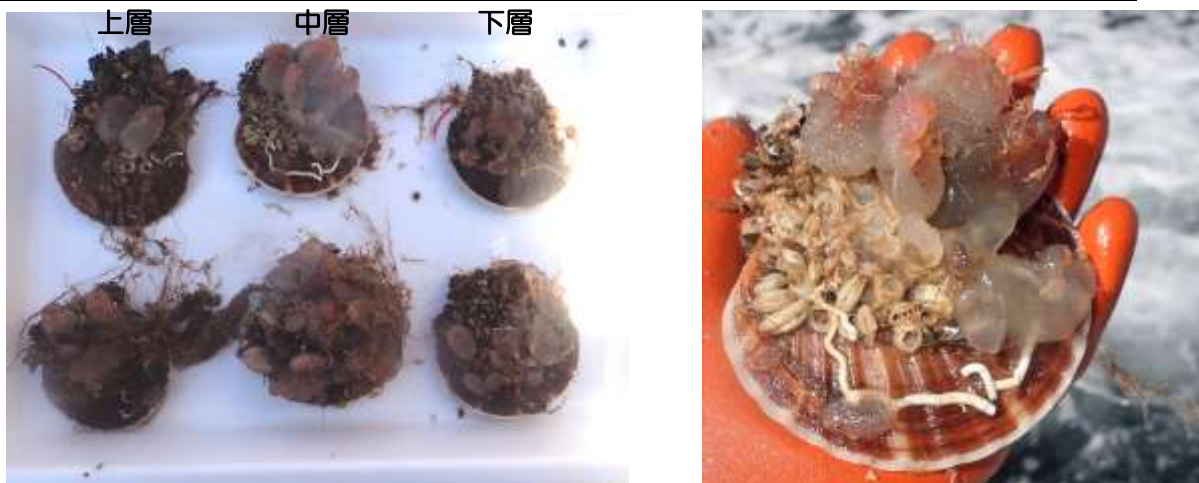
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

9月21日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は、8月から減少しました。平均付着個体数はホタテガイ 1 枚あたり 24.0 個体で、昨年を上回りましたが、過去 10 ヶ年の平均の 2/3 程度です。
- 平均付着重量は、昨年を上回りましたが、過去 10 ヶ年の平均の 2/3 程度でした。
- 5mm 未満の小型個体の割合は、8 月から減少したので、新たな付着は少なくなつたと考えられます。
- 「今後新たに付着する個体が少なくなっていること」、「今後、耳吊りホタテガイ上で新たな繁殖個体の増加が懸念されること」から、状況に応じて貝洗い等の対応を進めてください。

図 1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和 4 年 9 月 21 日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和 4 年度ザラボヤ被害防止ネットワーク構築委託事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

【調査月日：9月21日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚】

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、付着物を調査しました。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり24.0個体(過去10ヶ年の平均38.1個体)、平均付着重量は同19.1g(同28.0g)でした。また、平均サイズは15.1mm(過去10ヶ年の平均17.2mm)と平年よりもやや小さめでした(表1、図2)。

成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は約2割で、今後成熟個体の割合が高くなると考えられます(図2)。10月以降、成長に伴い、付着重量の増加が見込まれます(図3)。今年は昨年よりも付着数が多いことから、増加ペースは昨年よりも早いと見込まれます。出荷時期(12~4月)にホタテガイ1枚あたりヨーロッパザラボヤが10個体残っているだけでも、ホタテガイの重量を上回り、成長にも悪影響となりますので、状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果(八雲地区：令和4年9月21日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	65.0g	72.1g	40.7g	59.3g
ヨーロッパザラボヤ	11.8g	30.3g	15.3g	19.1g
その他	53.2g	41.8g	25.5g	40.2g
ヨーロッパザラボヤ個体数	9.8個体	26.0個体	36.2個体	24.0個体
令和3年9月(R3.9.23)の個体数	2.8個体	12.2個体	33.0個体	16.0個体
令和2年9月(R2.9.29)の個体数	38.2個体	56.6個体	32.8個体	42.5個体
令和元年9月(R1.9.18)の個体数	28.0個体	21.4個体	46.4個体	31.9個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成(八雲地区：令和4年6~9月)

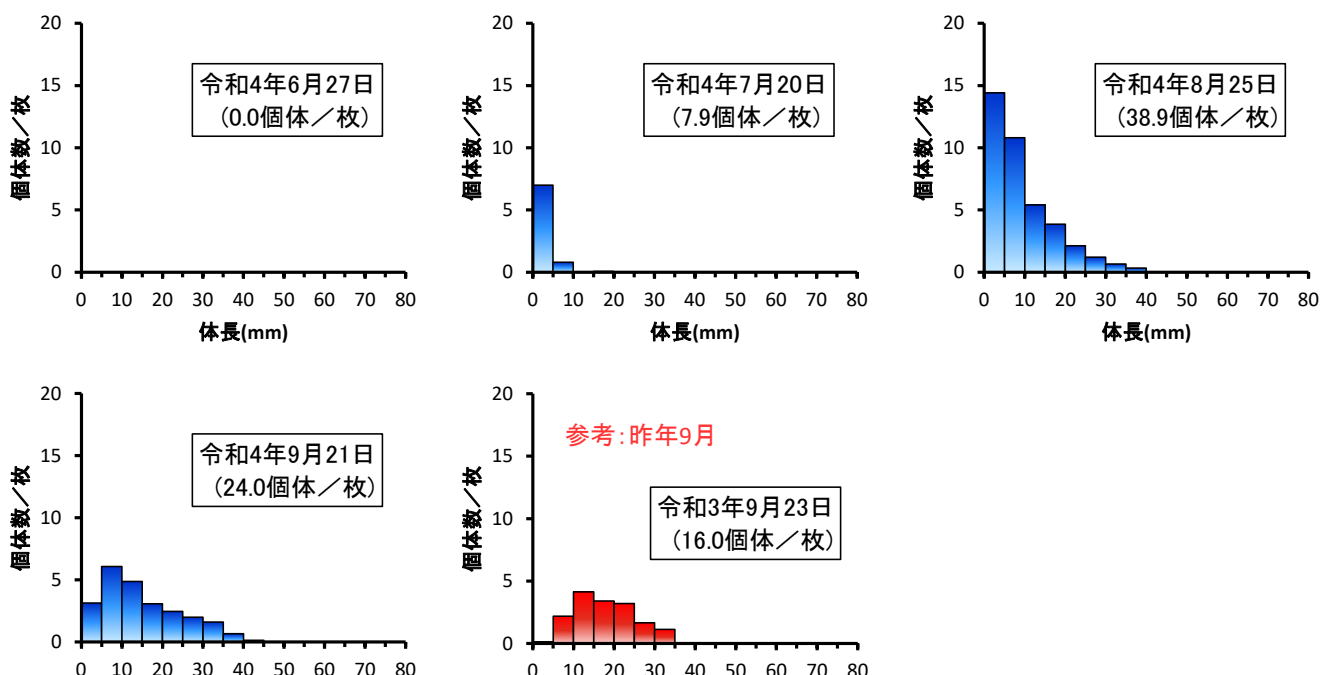
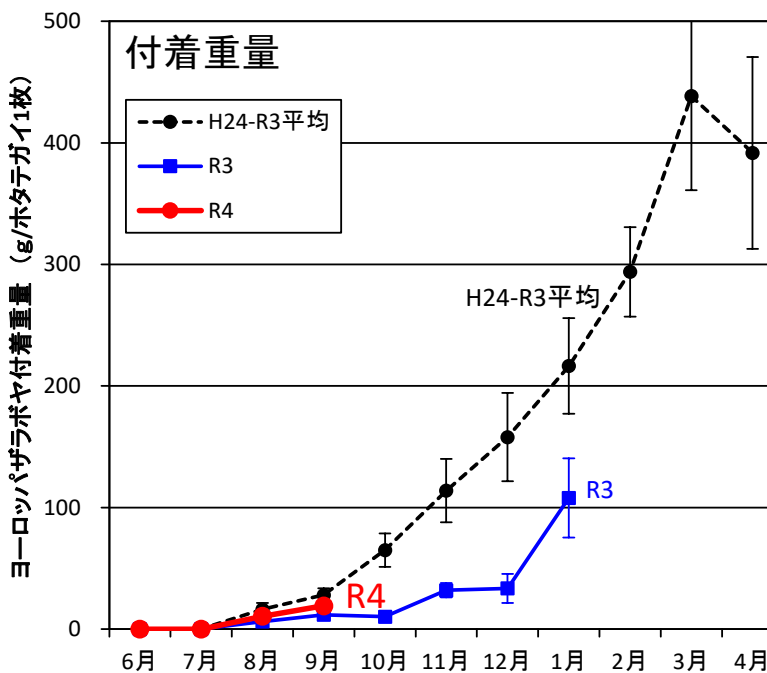
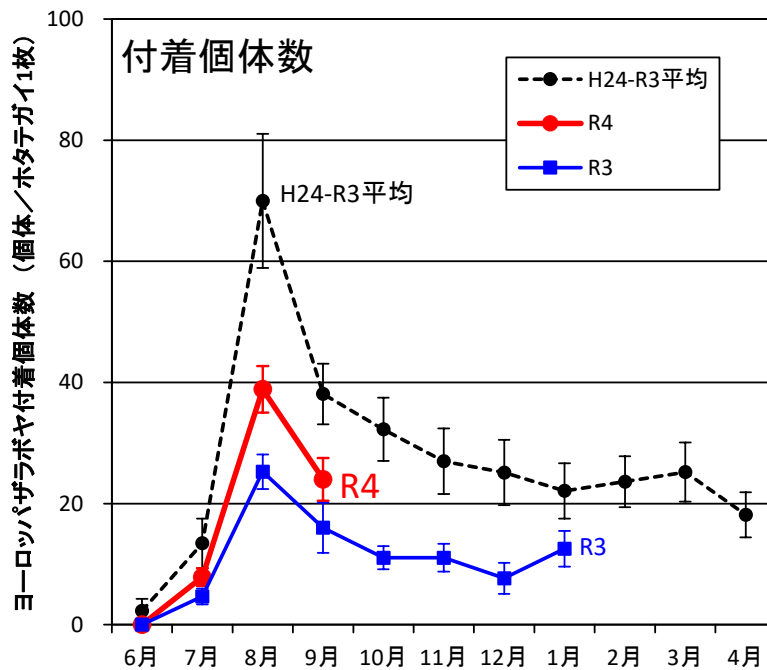


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化
 下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化
 各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。
 過去10ヶ年（H24～R3年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着個体数は7～8月に大きく増加し、8～9月に大きく減少した後、10月以降は緩やかに減少します。付着重量は10月以降、急激に増加します。